

西宮市障害福祉推進計画策定委員会（令和6年度第1回）議事要録

○日時

令和6年（2024年）10月21日（月）14時30分～15時55分

○場所

西宮市役所本庁8階 A813会議室

○出席委員

潮谷会長、與那嶺副会長、梅谷委員、児嶋委員、角野委員、中川委員、中村委員、樋野委員、増田委員、計9名

○傍聴者

7名

○次第

1. 開会

2. 傍聴の許可

3. 議事

(1) 第6期西宮市障害福祉計画・第2期西宮市障害児福祉計画（令和3～5年度）の進捗状況について

(2) 第7期西宮市障害福祉計画・第3期西宮市障害児福祉計画（令和6～8年度）の進捗確認方法について

4. 閉会

○資料

- ・資料1 第6期西宮市障害福祉計画・第2期西宮市障害児福祉計画（令和3～5年度）の進捗状況について
- ・資料2-1 第7期西宮市障害福祉計画・第3期西宮市障害児福祉計画（令和6～8年度）進捗状況報告資料目次（案）
- ・資料2-2 県内中核市、神戸市及び大阪市の進捗状況資料

○事務局

健康福祉局長、福祉総括室長、福祉部長、生活支援部長、障害福祉課、生活支援課、地域共生推進課、福祉のまちづくり課、法人指導課、地域保健課、健康増進課、保健予防課、子育て事業部長、こども未来部長、診療事業課、地域・学校支援課、学校教育部長、学校教育課、特別支援教育課

○議事要録

会長

本日の議題は、1つ目に「第6期西宮市障害福祉計画・第2期西宮市障害児福祉計画（令和3～5年度）の進捗状況」について、2つ目に「第7期西宮市障害福祉計画・第3期西宮市障害児福祉計画（令和6～8年度）の進捗確認方法」についてご意見をいただく。

では、1つ目の「第6期西宮市障害福祉計画・第2期西宮市障害児福祉計画（令和3～5年度）の進捗状況」について事務局から説明をお願いします。

事務局

（下記の議事について説明）

- （1） 第6期西宮市障害福祉計画・第2期西宮市障害児福祉計画（令和3～5年度）の進捗状況について

委員

計画に対する進捗評価を担当部局が行っているが、目標値に対する評価とあるが当事者のニーズや必要量に対する評価はどのように行っているのか、

事務局

計画策定の前年度に実態調査を行っており、その中で、事業所の充足状況等の課題について当事者からの意見をいただいている。

会長

実績報告の中で、ニーズや需要にどこまで応えられているのか見えるような報告の仕方を考えてもらいたいと思う。

会長

前回の障害福祉推進計画では、計画の進捗状況については地域自立支援協議会及び障害福祉推進施策懇談会の中でも確認するという記述になっているか。

事務局

計画の進捗状況の評価にあたって、自立支援協議会、あるいは懇談会を通じて、障害のある当事者からの意見の集約、あるいは進捗状況の評価を行い取組みの評価を行うということで記載している。

ただ、実際にそれを評価できるのかというと、前期の計画では令和5年10月に懇談会を1度開催したのみという状況だった。過去の策定委員会の中でも障害のある当事者からの評価が必要であるという意見はいただいているので、今期の計画に関しては定期的な評価の機会を設けることを考えている。

会長

今回の計画からは、必ず定期的に自立支援協議会及び懇談会で進捗状況の確認をしてもらい、意見としてまとめてこの策定委員会に出していただきたい。この意見というのが一番地域実態を表していると思う。この委員会の中で、数字や担当課からのコメントだけ見ても、評価し辛いところである。

委員

以前は自立支援協議会での懇談会では、参画している当事者や事業所以外にも声をかけて開催していた。それが、いつの頃からか自立支援協議会に聞くという形になってしまっている。

市は、様々な団体から意見を聞き取ることになっていると思うが、自立支援協議会に参画している団体だけでなく、幅広く意見を聞くことができる場として懇談会を開催してもらいたい。

会長

自立支援協議会で諮るとなると、どうしても事業所や相談支援者が中心になってしまう。懇談会だと当事者の意見がより入りやすい。懇談会も昔はもっと盛んだったということだが、コロナ禍が明けた現在を踏まえ、そういった姿を目指していくというのが望ましい。検討をお願いします。

副会長

計画するだけではなく、達成されることが大切だという話があったが、例えば地域生活移行に関する支援の項目では、令和5年度の取組み状況が支給決定数の実績数値のみとなっている。これは本当にこの計画の全体を適切に表しているのか。数字だけでなく、ニーズ把握や質も含めて評価ができているのか。取組み状況としての記載が不十分ではないかと感じた。数値が持つ意味を理解したうえで評価する必要がある。

会長

数字だけでは妥当性が判断できない部分もある。自立支援協議会の中に地域移行支援を検討する部会があるなら、行政だけで評価するのではなくそちらにも投げかけて事例の評価を行ってほしい。

委員

自立支援協議会においても、本人中心支援、当事者参画を踏まえた体制の見直しを行っているところ。自立支援協議会は障害福祉推進計画の中で大きな役割を果たしており、今後も柔軟に対応していけるよう行政と連携していければと思う。

会長

「市役所における相談支援体制の充実」の項目について、所管課評価が前年度の△から◎に評価しているが、どのような背景で評価したものか。

事務局

障害、高齢、あるいは生活困窮に関する事業担当課が、福祉連携という形で定期的に会議の場を設け、来庁者が必要なサービスにリーチできるように相談体制を整えているもの。

令和4年度以前はコロナ禍のため緊密に会議を重ねることが難しく△として評価していたが、現在は会議を通じて情報交換が可能となり、◎と評価している。

会長

重層的支援体制は現在どのような状況になっているか。

事務局

重層的支援体制整備事業への移行準備事業として令和5年度から取り組んでいるところである。予算措置の状況もあるが、令和7年度からの本格実施を見込んでいる。相談支援を担う部署同士の連携体制の仕組み化・ルール化といったところを準備事業で取り組んでいる。

外部機関との連携を含めた体制整備に向けて、今後ますますニーズが高まるであろう相談支援体制の充実を進めていく。

委員

権利擁護体制の充実の部分について、成年後見の市長申立の状況はどうなっているか。

事務局

成年後見制度利用支援事業は令和4年度は1件、令和5年度は5件となっており、成年後見の利用ニーズが大きく高まっていると認識している。虐待以外の事例についても、身寄りのない障害者の事例などがある。

会長

それでは、次の議事について、説明をお願いします。

事務局

(下記の議事について説明)

- (2) 第7期西宮市障害福祉計画・第3期西宮市障害児福祉計画（令和6～8年度）の進捗確認方法について

会長

数字だけの評価ではなく、内容についても記載できるようにすること。また、自立支援協議会等にも諮っていくということは、議事(1)でも述べたとおり考えてもらいたい。

委員

前期から策定委員会のメンバーが大きく変わっている。今期の策定委員会のメンバーに障害のある当事者団体が入っていないのは何か理由はあるか。

事務局

これまでの流れとして、計画策定年度に障害のある当事者団体に参画していただき意見をいただいている。策定後の進捗状況の評価にあたっては、今回のように人数を絞った委員構成で会を進行している。今後の委員構成については検討させていただければと思う。

会長

計画策定の前には、障害のある当事者を含め多くの方の意見を聞く場を設置しなくてはいけないということ。策定年度以外に障害のある当事者が入っていないということであれば、定期的に自立支援協議会及び懇談会などで障害のある当事者に進捗状況を確認してもらう必要性が増すと思う。

委員

障害福祉推進計画を3年計画として実行する中、報酬改定により就労継続支援A型の事業所の閉鎖が増えるなど、社会情勢の変化があった場合、都度計画を見直すことはあるのか？

事務局

計画策定年度が報酬改定前のタイミングということもあり、就労定着支援のような新たなサービス等、詳しい情報が出てきていない中で障害福祉推進計画のそれらを作り込むことが難しい。

策定後にさらに計画に手を加えるのは難しいが、進捗状況の報告にあたって新たな項目を入れ込むといった形で対応したいので、意見をいただければと思う。

会長

新たな障害福祉サービスが追加されるときに対応を議論するのはこの策定委員会なのか。それとも、施策推進会議のような上位の会議体があるのか。

事務局

西宮市では施策を検討する上位の会議体はない。

会長

そこに少し違和感がある。策定委員会は計画のことを議論する場になっていて、西宮市全体の障害福祉施策の足りない部分を議論するという点が弱いと感じる。

障害福祉施策の全体的な話は計画だけではできない。それこそ施策推進会議というのが上にあり、そこに障害福祉推進計画の代表があり、自立支援協議会の会長や各部会長が入って西宮市の障害福祉施策を議論する場というのが本来必要なのではないかと思う。

事務局

その点は他市の状況も確認させてもらえたらと思う。

会長

災害に関する体制の整備について、発災時に避難行動をスムーズに取れる評価になっているかが気になっている。

例えば、個別避難計画の策定状況。障害福祉推進計画の中で明確に打ち出す項目ではないかもしれないが、すごく重要な課題だと思う。評価の中で明確にした方がいいのではないかと。実際、個別避難計画の進捗はどうなっているのか。

事務局

障害福祉推進計画の中で個別避難支援計画の計画策定率等の評価項目は設けられていない。

今後この計画策定率を上げていくために防災部局と連携して取り組んでいるが、このことを評価指標に盛り込んでいく必要があると考えている。

会長

是非とも指標の中に取り入れてほしい。各市町村で進捗が遅く、策定の主体が明確になっていない状況でもある。ただ、自治体によっては計画相談の事業所が自立支援協議会や基幹相談と連携しながら作って報酬加算を付けているところもあると聞く。

また、市によっては危険度が高い地域から集中的に作っていて、個別避難計画を作成する伴走者や回答者をどう設定するのかということ、地域の中で工夫、努力しているということも聞く。あまり障害福祉推進計画の中で触れていないところではあるが、是非進めていただきたい。

委員

北部地域でも再三防災の話は出ているが、なかなか進んでいない。南部と北部では災害の影響度合いが異なる。北部の場合は避難が困難な可能性が非常に高く、行政と地域と一緒に進めていく必要がある。北部は特に個別避難計画作成の優先度が高いと考えている。

会長

資料2-2で他市の進捗状況の資料を比較しているが、例えば、地域生活支援拠点の体験の機会の件数の比較など、各市で不足している部分や独自に行っている部分を前面に出す必要がある。それぞれの内容を細かく見ていかないと、各市の実態は見えてこない。

むしろ各市の独自サービスを抽出して、西宮市で必要なところ・できそうなところを見ていくといったやり方がいいのではないかと。比較対象の市の選定方針はどういうものだったのか。

事務局

選定にあたっては、まずは近隣の中核市と、地域の中でも一定の規模がある神戸市と大阪市を比較対象とすることで見えてくるものがあるのではないかと考えた。

委員

進捗管理にあたっては、担当の所管課だけでなく現場にいる民間事業者や市民がそれぞれ何を課題と感じているのかを見ていかないと解決に繋がらないと思う。

副会長

そもそも何のために他市との比較を行ったのか。

事務局

西宮市がこれまでの進捗状況を報告するにあたって、周辺市とかけ離れた評価の仕方をしていないかを確認、皆様にお示ししたかった。

実際のところ、資料構成自体は各市で大きな違いはなく、成果目標やサービスの支給量があり、それに加えて各市が独自に作っている指標という構成だった。

それを踏まえて委員が市の取組みを評価する際、どの部分を重点的に確かめれば議論しやすくなるのかを考えていきたいと思った。

副会長

項目だけでなく、内容も含めて比較して考える必要がある。

委員

数値として成果目標を記載している部分について、できることとできないことがあると思うが、その成果目標に至った取組みが表の中に書かれていることと思う。直接成果目標に結びついた取組みが、最終的に専門職や市民など誰に届いたのかがわかるとよいと思う。

また、「今後の取組・課題」とあるが、それが現場の課題なのか、各所管が考える課題なのかがわかるとよい。その方が委員も意見を交わしやすい。

委員

次の進捗状況の評価はいつのタイミングを考えているのか。年度末にやるわけではないと思うが、時期を教えてください。

事務局

今のところ、次の策定委員会は令和7年の10月頃を目途にして考えているので、評価いただくのはおおよそ1年後と考えていただければよい。

委員

そうであれば、次回の策定委員会で委員が進捗状況の評価を行う際、どのタイミングでこの資料を見て、何を議論するかを明確にしておかないと、評価がし辛いと思う。

会長

いいと思う。今回事務局が回答しているとおり自立支援協議会に持って行き、そこで出た意見をもって策定委員会で報告するという流れになる。そこはスケジュール化してもらう必要が

ある。

評価にあたって、表の書き方であるとか検討の方向については意見が出たが、追加の意見があれば事務局へ連絡してもらえばよい。事務局で整理したうえで最終的には会長の私と市で調整をさせていただく。

事務局

今期計画の進捗状況の評価については、本日いただいたご意見を踏まえたうえで令和7年10月に開催予定の障害福祉推進計画策定委員会にて報告する。評価していただくためのスケジュール感は予め委員の皆様にお示しする必要があるので、別途メールなどでご案内させていただく。

また、次回の策定委員会では、令和9年度から11年度の計画見直しにあたってのアンケート調査についてご意見をいただく予定である。

以上